92331518-01

**2019 年 5 月（第 15 版）
*2018 年 6 月（第 14 版）

認証番号：219ABBZX00238000

機械器具 12 理学診療用器具
管理医療機器　循環器用超音波画像診断装置　40763000
（観血血圧モニタ　31692000）

特定保守管理医療機器 i-Lab カートシステム

再使用禁止

【禁忌・禁止】

1.適用対象（患者）

次の患者には使用しないこと。

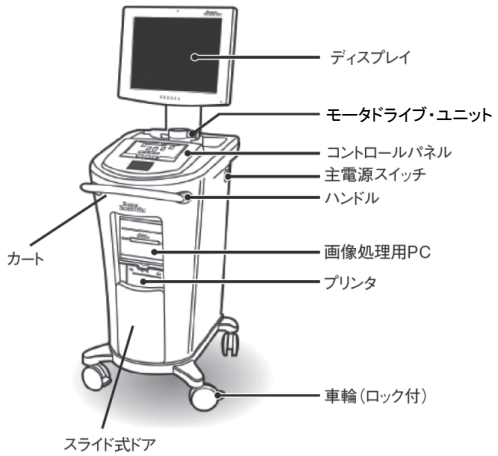
⑴ 菌血症あるいは敗血症の患者。［感染に対する治療を十分に行うことが困難になり、感染を拡大させる可能性がある。］
⑵ 凝血系の異常のある患者。［出血のリスクや止血を達成できないリスクが増加する可能性がある。又は、カテーテルの挿入・操作時に血栓形成を引き起こし、患者を塞栓症のリスクに曝す可能性がある。］
⑶ 冠動脈バイパスグラフト術（CABG）に対して不適格であると判断される患者。［急性期の虚血性合併症を生じたときに緊急CABGを必要とする。］
⑷ PTCA（経皮的冠状動脈形成術）に対して不適格であると判断される患者。［合併症が発生した場合、患者が適切な治療（PTCA）を受けられない可能性がある。］
⑸ 本品を完全閉塞部の貫通の目的で使用しないこと。［血管を損傷したり、本品を損傷する可能性がある。］
⑹ 血行動態の不安定性あるいはショックを示す患者。［出血や腎不全など、手技上の合併症を増加させる可能性がある。］
⑺ 冠動脈攣縮のある患者。［急性冠閉塞の可能性がある。］
⑻ 心筋梗塞の患者。［治療の遅延を招く可能性がある。］
⑼ 動脈内または心室内に血栓を有する患者。［血栓塞栓症のリスクが増大する。］
⑽ 生命に関わる律動疾患のある患者。［不整脈に関連する重大な有害事象を引き起こしたり、治療の遅延を招くリスクが増大する。］
⑾ イメージングカテーテルが交差し得る人工心臓弁を使用している患者。［人工心臓弁の機能に影響を及ぼしたり、イメージングカテーテルのエントラップメント又は損傷を引き起こす可能性がある。］
⑿ 胎児のイメージングには禁忌である。［本品は胎児のイメージングを行うことを意図していない。］

2.使用方法

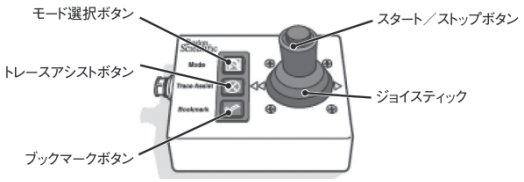
⑴ 再使用禁止
⑵ 本品を可燃性麻酔薬等、引火性のある環境下で使用しないこと。［引火又は爆発のおそれがある。］
⑶ 観血式血圧測定機器として用いる場合、本品は患者アラームを備えていないことから心臓のモニタリングに使用することは出来ない。［本品は監視装置ではない。］

【形状・構造及び原理等】

1.本体

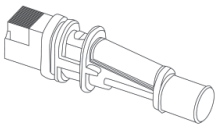


〈テーブルサイド・コントローラ（TSC、オプション）〉



〈マウス（Version2.5以上の場合のオプション）〉（非医療機器）

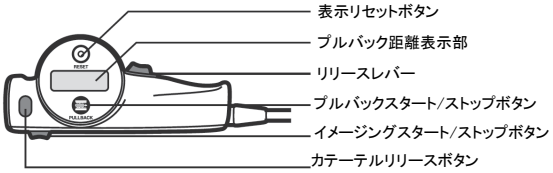
〈カテーテル・シミュレータ〉（非医療機器）



2.附属品

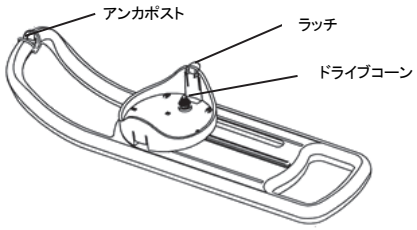
超音波画像診断装置に係る附属品

** **〈モータドライブ・ユニット（MDU5 プラス）〉**

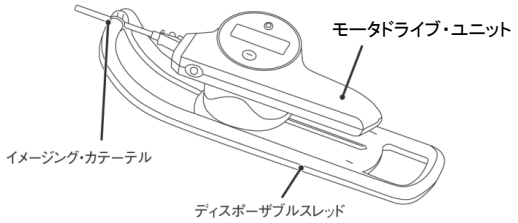


取扱説明書を必ずご参照下さい。

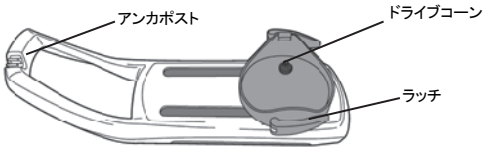
〈ディスポーザブルスレッド（滅菌済み）〉再使用禁止
ディスポーザブルスレッドは、再処理、再滅菌を行わないこと。



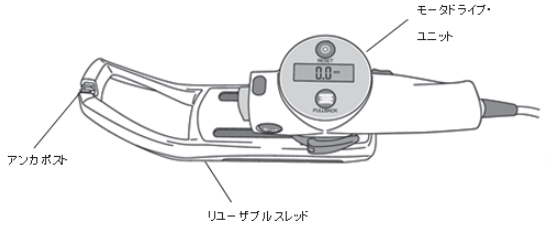
モータドライブ・ユニットをディスポーザブルスレッド（滅菌済）に装着した状態



〈リユーザブルスレッド（未滅菌）〉



モータドライブ・ユニットをリユーザブルスレッド（未滅菌）に装着した状態



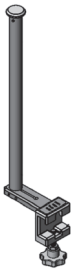
観血式血圧測定機器に係る附属品
〈FFRリンク（FFR Link）・電源コード〉

〈IBP入力アダプタケーブル〉

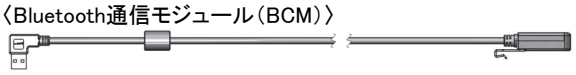
〈Pa出力ケーブル〉

〈Pd出力ケーブル〉

〈ベッドレールマウント〉(非医療機器)



〈Bluetooth通信モジュール（BCM）〉



電気的定格	本体	
	電源電圧	交流 100V
	電源周波数	50Hz/60Hz
	電源入力	600VA（最大）
	FFRリンク	
	電源電圧	100～240VAC
	電源周波数	50Hz／60Hz
	電源入力	20VA（公称値）
機器の分類	電撃に対する保護の形式	クラスⅠ
	電撃に対する保護の程度	耐除細動形のCF形装着部（モータドライブ・ユニット・FFRリンク）
	水の有害な浸入に対する保護の程度	IPX0（本体） IPX4（モータドライブ・ユニット） IPX1（FFRリンク）

［作動・動作原理］
超音波画像診断装置
本品は併用するイメージングカテーテルと接続し、超音波反射法により画像を表示する。イメージングカテーテルのトランスデューサから発信された超音波パルスが血液中を伝播し、生体組織等から反射された超音波パルスを受信する。本品は時間の経過から深度を、また、反射パルスの振幅をグレースケールの輝度変調することにより、角度・距離・輝度の要素を高速演算し、Bモード断層画像を構築することができる。

** **観血式血圧測定機器**
FFRリンクは、専用のプレッシャーガイドワイヤを接続して用いる。FFRリンクは、プレッシャーガイドワイヤから狭窄末梢血圧（Pd）に対応する光信号を受け取る。また、大動脈圧トランスデューサ（本認証に含まない）に接続されたIBPトランスデューサケーブル（本認証に含まない）を介してIBP入力アダプタケーブルから大動脈血圧（Pa）を受信し、処理する。FFRリンクは、受信した光信号を処理し、デジタル化してBluetoothによる無線通信により大動脈圧（Pa）と狭窄末梢血圧（Pd）を送信する。送信された信号は、Bluetooth通信モジュールを経由して、データ収集用PCに送られる。データ収集用PC及び画像処理用PCは、大動脈血圧（Pa）波形及び狭窄末梢血圧（Pd）波形や、PaとPdの比で示される血流量の比を画面表示するための処理を行う。また、FFRリンクはANSI/AAMI BP-22適合の大動脈圧トランスデューサを通るアナログ信号を血行動態モニタ（ポリグラフ）（本認証に含まない）に送信する。

** ［特性及び付帯機能］

・走査方式	メカニカルスキャン方式
・超音波診断装置の種類	Bモード
・超音波ビームの集束方法	固定焦点
・画像処理方法	デジタル処理
・併用イメージングカテーテルの種類	振動子回転型
・使用カテーテル周波数	9～60MHz
・探触子の適用部位	心臓及び血管内
・付帯機能	血管内超音波画像表示機能 縦方向断面表示機能／オートプルバック機能 多重画面表示機能 血管内血流量比画面表示機能 データ保存機能 患者情報表示／登録機能 保存データ処理機能 ブックマーク機能 iMap機能

音響作動周波数（JIS T 1501による）
9MHz：9±2MHz、30MHz：30±4MHz、40MHz：40±5MHz、60MHz：55±5MHz

【使用目的又は効果】

超音波画像診断装置

本品は、超音波を用いて体内の形状、性状又は動態を可視化し、画像情報を診断のために提供する。超音波画像診断装置用プローブ（イメージングカテーテル、本認証に含まない）と共に使用し、血管内部に超音波を当てて血管断層の画像解析に用いる。

観血式血圧測定機器

本品は、血管内での観血的な血圧の測定、表示に用いる。

【使用方法等】

〈組み合わせて使用する医療機器〉

超音波画像診断装置

ボストン・サイエンティフィック社製イメージングカテーテル（表に既承認品及び他の周辺関連用品を示す）：

*

併用医療機器	承認番号
オプティクロス超音波イメージングカテーテル注1	22500BZX00274000
オプティクロスF超音波イメージングカテーテル注1	22800BZX00262000
オプティクロス18超音波イメージングカテーテル注1	22800BZX00278000
Ultra ICE Plus超音波イメージングカテーテル注1	22800BZX00297000

注1：MDU5プラスと接続可能なイメージングカテーテル

滅菌カバー又は滅菌バッグ（単回使用）は単品又はイメージングカテーテルに附属して供給される。

観血式血圧測定機器

ボストン・サイエンティフィック社製プレッシャーガイドワイヤ

併用医療機器	承認番号
コメットプレッシャーガイドワイヤ	22800BZX00225000

共通

周辺関連用品	説　　明
TSC 用ドレープ	テーブルサイド・コントローラを使用する場合
画像記録媒体	CD/DVD、リムーバブルハードディスク等

超音波画像診断装置

1.使用前の準備

⑴ ディスプレイが見やすく、操作しやすい場所に本体を置く。

⑵ 患者と本体の間に適切な距離があり、電源コードや他の装置のケーブルがコネクタに届くことを確認する。

⑶ 周囲の照明がディスプレイに反射し操作の邪魔にならないように、また、他のディスプレイとの位置関係を考慮し設置場所を決め、フロントの車輪をロックする。

⑷ 本体と他の機器（プリンタ、ネットワーク機器等）を接続する際、あるいは接続を外すときは電源がOFF（主電源スイッチの「O」の位置）になっていることを確認する。

⑸ モータドライブ・ユニットのケーブルを所定のコネクタに接続する。

⑹ 必要があれば、テーブルサイド・コントローラをTSC用コネクタに接続し患者診察台にクランプで取り付ける。

⑺ 本体の電源をON（主電源スイッチの「｜」の位置）にし、初期化画面が表示されることを確認する。初期化終了後、操作画面が表示されたら、日付、時間等の表示が正しいことを確認する。

⑻ コントロールパネルを使用し初期設定（患者データ入力等）を行う。

2.使用直前の操作

ディスポーザブルスレッドを使用する場合

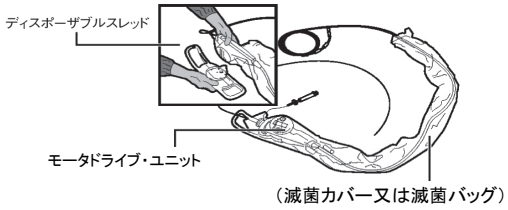
⑴ イメージングカテーテルに附属している滅菌カバー又は滅菌バッグの包装を開け、無菌的に取り出し、モータドライブ・ユニットをこの中に入れる。

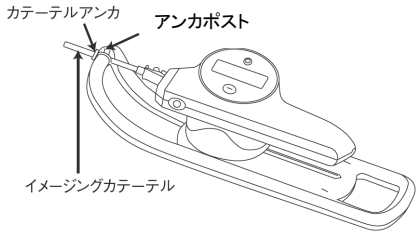
⑵ イメージングカテーテルのハブをモータドライブ・ユニットに確実に接続し、カテーテルの認識コードが画面に表示されることを確認する。

⑶ イメージングカテーテルの添付文書に従い、カテーテルをフラッシュする。

⑷ ディスポーザブルスレッドを無菌的に取り出し、適切な場所に設置する。

⑸ モータドライブ・ユニットをディスポーザブルスレッドに取り付け、イメージングカテーテルのアンカをディスポーザブルスレッドのアンカポストにはめる。





⑹ 患者ボタンを押し、患者情報画面が表示されたらコントロールパネルより必要な患者情報を入力する。

⑺ 検査項目を入力する。

⑻ すべてが正しく設定されているか確認する。

⑼ 表示画面を選択する。

リユーザブルスレッドを使用する場合

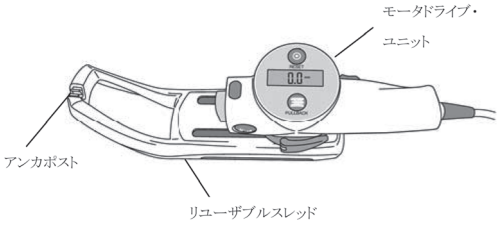
⑴ モータドライブ・ユニットをリユーザブルスレッドに取り付ける。

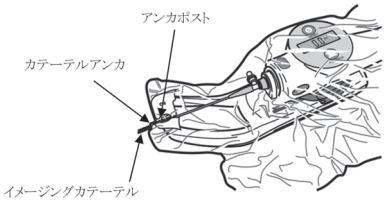
⑵ 滅菌バッグ（本認証に含まれない）の包装を開け、無菌的に取り出し、モータドライブ・ユニット及びリユーザブルスレッドをこの中に入れる。

⑶ イメージングカテーテルのハブをモータドライブ・ユニットに確実に接続し、モータドライブ・ユニットのイメージングスタートボタンを押す。

⑷ カテーテルの認識コードが画面に表示されることを確認する。

⑸ イメージングカテーテルのアンカをリユーザブルスレッドのアンカポストにはめる。





⑹ イメージングカテーテルのイメージングコアを遠位端に移動させるためにモータドライブ・ユニットのリリースレバーを押す。

⑺ イメージングカテーテルの添付文書に従い、カテーテルをフラッシュする。

⑻ 患者ボタンを押し、患者情報ダイアログボックスが表示されたらコントロールパネルより必要な患者情報を入力する。

⑼ 検査項目を入力する。

⑽ すべてが正しく設定されているか確認する。

⑾ 表示画面を選択する。

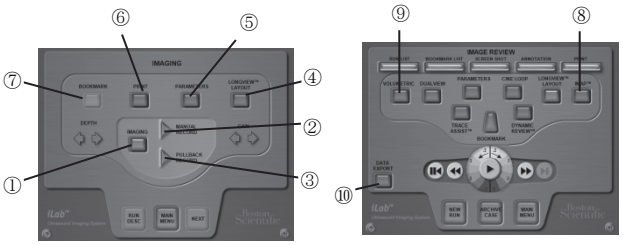
3.使用中の操作

⑴ イメージングカテーテルの添付文書に従い、患者にカテーテルを挿入し、画像診断を行う位置までカテーテルを進める。

⑵ 超音波画像をディスプレイに表示するには、本体のコントロールパネルのイメージングボタン（下図及び下表参照）、あるいは

モータドライブ・ユニットのイメージボタンを押す。

＜イメージング画面＞　　＜イメージレビュー画面＞



①	IMAGING	ディスプレイ上で画像表示が開始・停止する。
②	MANUAL RECORD	手動により記録を開始・停止する。
③	PULLBACK RECORD	オートプルバック機能が開始される。
④	LONGVIEW™ LAYOUT	LongView™ 機能が開始される。
⑤	PARAMETERS	これを押すとダイアログが表示され、画像の回転、深度、プルバック速度等のパラメータを設定することができる。
⑥	PRINT	プリンタで印刷を開始する。
⑦	BOOKMARK	ブックマークを記録する。
⑧	iMap	iMap機能を起動する。
⑨	VOLUMETRIC	体積計算機能を起動する。
⑩	DATA EXPORT	保存したRFデータもしくはIVUSデータを外部記録装置に記録する。

⑶ 本体のコントロールパネルを操作し、超音波画像の表示を最適化する。

⑷ コントロールパネルの録画（MANUAL RECORD）ボタンを押すと本体HDDに動画が記録される。設定によっては、画像に合わせて、ディスプレイのマイクロフォンからの音声も記録される。

⑸ モータドライブ・ユニットのプルバックスタート／ストップボタン、あるいは本体のコントロールパネルのプルバック（PULLBACK RECORD）ボタンを押すと、オートプルバック機能でイメージングカテーテルの振動子部分を移動しながら動画が記録される。

⑹ 超音波画像の録画中あるいは再生中にブックマークボタンを押すことにより、ブックマーク（指標）を記録できる。これによりブックマークを記録した画像をすぐに呼び出すことができる。

** ⑺ 必要に応じて、iMAP機能（iMap）ボタン、体積計算機能（VOLUMETRIC）ボタン、保存したRFデータもしくはIVUSデータを外部記録装置に記録する機能（DATA EXPORT）ボタンを選択し、希望するデータ処理を行う。

⑻ 必要に応じてマウスにより画像の操作を行う。（Version2.5以上の場合）

⑼ 画面を印刷する場合、コントロールパネルのプリントボタンを押す。

** ⑽必要に応じ、設定を保存する。

4.使用後の処置

** ⑴ 本体HDDに保存された画像や情報等のデータをCD/DVD、リムーバブルハードディスク等に保存し記録媒体を取り出す。

観血式血圧測定機器

1.使用準備

⑴ ディスプレイが見やすく、操作しやすい場所に本体を置く。

⑵ 患者と本装置の間に適切な距離があり、電源コードや他の装置のケーブルがコネクタに届くことを確認する。電源延長コードは使用しないこと。

⑶ 周囲の照明がディスプレイに反射し操作の邪魔にならないように、また、他のディスプレイとの位置関係を考慮し設置場所を決め、フロントの車輪をロックする。

⑷ 本体と他の機器（プリンタ、ネットワーク機器等）を接続する際、あるいは接続を外す際は電源がOFF（主電源スイッチの「○」の位置）になっていることを確認する。

⑸ 本体の電源をON（主電源スイッチの「｜」の位置）にし、初期化画面が表示されることを確認する。初期化終了後、操作画面が表示されたら、日付、時間等の表示が正しいことを確認する。

⑹ コントロールパネルを使用し初期設定（患者データ入力等）を行う。

⑺ FFRリンクを設置する。

⑻ Pa出力ケーブルとPd出力ケーブルをFFRリンクに接続する。

⑼ Pa出力ケーブルを血行動態モニタに接続する。

⑽IBPトランスデューサケーブルをIBP入力アダプタケーブルに接続し、IBP入力アダプタケーブルをFFRリンクに接続する。

⑾専用のプレッシャーガイドワイヤをFFRリンクに接続する。

⑿電源コードをFFRリンクに接続する。

2.使用直前の操作

⑴ ディスプレイの画面上でFFRモードを選択する。（カテーテル操作室内にあるFFRリンクとBluetooth通信モジュールが無線で接続を確立する。）

⑵ FFRリンクのシリアル番号のBluetoothマークをディスプレイの画面上で特定する。無線で接続が確立されたこと（FFRリンクの「Polaris Connected」LEDが5秒間点滅する。）を確認してから次の操作に移る。

⑶ FFRリンクのIBP入力アダプタケーブルコネクタにIBP入力アダプタケーブルが接続されていることを確認する。大動脈圧トランスデューサがIBPトランスデューサケーブルを介してIBP入力アダプタケーブルと接続していることを確認する。

⑷ 大動脈圧トランスデューサを大気開放し、Pa（大動脈圧）信号をゼロ較正する。

⑸ 専用のプレッシャーガイドワイヤをFFRリンクのPd入力ポートに接続する。

⑹ 専用のプレッシャーガイドワイヤを挿入し、ガイディングカテーテルの中に進める。専用のプレッシャーガイドワイヤのセンサ（先端から約3cmの箇所）をガイディングカテーテルの先端部の先端側に配置する。

⑺ 全ての造影剤が除去されるまで、ヘパリン加生理食塩液でガイディングカテーテルをフラッシュする。

⑻ 大動脈圧トランスデューサが患者の心臓と同じ高さにあることを確認する。

⑼ Pa波形、Pd波形およびトレンドラインを安定させ、画面の「同調する」を押し、同調したことを確認する。

** **3.使用中の操作**

⑴ 必要に応じて充血を誘導させる。

⑵ 血管内圧（Pa、Pd）の測定及び記録を行う。

⑶ 再度、Pa波形、Pd波形が同調していることを確認する。

⑷ 症例のデータを保存する。

4.使用後の処置

⑴ 本体ハードディスクドライブに保存されたデータをCD/DVD、リムーバブルハードディスク等に保存し記録媒体を取り出す。

＜使用方法等に関連する使用上の注意＞

⑴ イメージングカテーテルはモータドライブ・ユニットからディスポーザブルスレッド又はリユーザブルスレッドのアンカポストに向けてまっすぐに置くこと。［曲がっているとプルバックの測定精度に影響し、画質に影響がでる。］

⑵ イメージングカテーテルのハブがモータドライブ・ユニットに接続しにくい場合には、ハブを少し引いて90度回転させてから、再度接続を試みること。

⑶ 測定の消去を確定すると復元できないので、よく確認すること。［システムからの警報音はなく、操作を取り消すことはできない。］

⑷ コントロールパネルやテーブルサイド・コントローラのボタンを押す際には、強すぎたり速すぎたりしないように注意すること。［破損したり、意図しない動作をする可能性がある。］

⑸ Trace Assist機能（コンピュータ画像解析により、画像上の管腔あるいは血管壁の推定境界線を自動的に描写する補助機能）

を使用する際には、必要であれば専門医の判断により修正を加えること。

⑥ 一旦RUNを開始すると、検査項目や適用血管の選択設定を変更することはできない。

⑦ イメージングコアをカテーテル内に進める際は、必ず先にモータドライブ・ユニットをオンにしてから行うこと。

⑧ イメージングカテーテルを抜去するときは、常に事前にモータドライブ・ユニットをオフにすること。[モータドライブ・ユニットが過負荷にならないようにする。]

⑨ イメージングカテーテルの位置決めは血管造影エックス線透視下で行うこと。

【使用上の注意】

1.重要な基本的注意

⑴ 本品は患者の状態を監視する機能を有してしないため、使用中は動作状態及び患者に異常がないことを監視し、異常が認められた場合には、直ちに使用を中止すること。

⑵ 本品を処置室に設置した場合、滅菌野で使用しないこと。

⑶ 併用するイメージングカテーテルに適合するモータドライブ・ユニットを使用すること。[併用するイメージングカテーテルの種類により、接続可能なモータドライブ・ユニットの種類が異なる。]

⑷ イメージングカテーテルが滅菌カバー又は滅菌バッグの開口に差し込まれ、イメージングカテーテルとモータドライブ・ユニットの間に滅菌カバー又は滅菌バッグの一部が挟まれていないことを確認すること。

⑸ イメージング中にモータドライブ・ユニットからイメージングカテーテルを外したり、接続したりしないこと。[イメージングカテーテルやモータドライブ・ユニットに損傷するおそれがある。]

⑹ 使用環境で利用が推奨されている場合には、絶縁トランスに繋がる等電位化接地端子を、病院の等電位化システムに常時接続すること。

⑺ 絶縁トランスは、本品でのみ使用するものである。絶縁トランスを使っていないコンセントを本品以外の装置に使用しないこと。

⑻ CD、DVDにはいかなる粘着式ラベルも貼付しないこと。他のラベルではCD、DVDのバランスが悪くなったり、剥がれたりすることがある。[ドライブや本体が破損するおそれがある。]

⑼ 本品を移動させるときは、カートは引かずにハンドルを静かに押すこと。また、ケーブル類を踏まないこと。[装置に衝撃又は振動を与えると、故障の原因となる。]

⑽ コントロールパネルは反射を抑えるためのコーティングが施されている為、必ず指で操作すること。また、いかなるものも直接スプレーしないこと。鋭利なものによる操作や研磨性のものを使用しないこと。

⑾ 本品の電源を切るときは、必ず最初にコントロールパネルを使い、その次に主電源スイッチを切ること。[システムに問題が生じるおそれがある。]

⑿ 再起動をする場合、主電源スイッチを切ってから10秒以上経過してから主電源を入れること。

⒀ カテーテル・シミュレータを接続しているときに適切な画像が得られない場合は、使用せず弊社テクニカルサポートセンターに連絡すること。

⒁ 本品が正常に作動しない場合は、一度シャットダウンしてから再起動し、正常に作動することを確認した上で使用する。

⒂ 使用前に電磁環境の状況を調査し、必要に応じ対策を講じること。[周囲に強い電磁波などが存在すると、波形に雑音が混入したり、誤作動を起こすことがあり、患者に悪影響を与える可能性がある。]

⒃ ESD(静電放電)の記号が表示されているコネクタに触れないこと。

⒄ 起動及び初期化の最中にテーブルサイド・コントローラを操作したり、コントロールパネルに触れたりしないこと。

⒅ 画像プロセッサと画面との間に伝達不良が発生し、画面上で視覚の歪みが生じた場合は、画面のオン・スクリーン・ディスプレイ(OSD)ボタンを使って、モニタを製造時のデフォルト設定にリセットすること。

⒆ 心電図の入力信号が入力レンジを越えた場合、モニタの心電図信号が正しく表示されないため注意すること。

⒇ 診断レベルの超音波によって生じる有害作用は確定されていないが、不必要な曝露は避けるべきである。

(21) JPEG圧縮法は、最大(100%)設定においても、保存された画像の空間及びグレースケール品質の両方が低減される。所属の医療機関の許可なくこの設定を使用しないこと。[画像診断の質に影響を及ぼす可能性がある。]

(22) DDPの選択を不適切に設定しないこと。[画面上で診断上重要な情報が鮮明に見えないおそれがある。]

(23) タイム・ゲイン補正(TGC)の初期設定は、それぞれのカテーテルで利用される、ほとんどの条件の画像で対応できるように設定されている。これを不用意に変更しないこと。[画面上で診断上重要な情報が鮮明に見えないおそれがある。]

(24) 診断する必要があると思われる低レベル信号が分かりにくくなることを避けるため、設定を調節する際にも注意すること。[画質が著しく悪くなるおそれがある。]

(25) 信号レベルが不適切な場合、本品や外部の装置が破損することがある。弊社に認可されていない装置を接続する場合は本品に該当するあらゆる電気安全基準に適合していること。

(26) Trace Assist機能のトレーシングを編集する場合、DONEを押すと、このシステムによって行われたトレースと測定に同意することを認めることとなる。手技の際これらの測定を使用する場合の最終的な責任はユーザーにある。

(27) 面積測定において、各面積は交差して描かないこと。[本品から報告される形状の面積が正確でない可能性がある。]

(28) iMap機能はグレースケール表示に対する拡張機能である。本機能の色付け機能及び定量的測定機能については、補足情報を提供することのみを目的としており、治療を決定づけるものではない。本機能は血管疾患の状態及び処置に関する医学的判断の代わりとはならないため、あらゆる臨床決定は、医師の判断で行うこと。

(29) iMap機能を有効にすると、ルーメンと血管の間の領域のiMap情報を提供する。iMapのアルゴリズムでは、描画された領域に入っている全てのRF信号がいずれかの組織型カテゴリに分類され、信頼性レベル(CL)情報がつけられる。従って、描画されたiMap領域内に他の組織型や埋め込み型医療機器(ステント・ストラット等)が取り込まれていると、これらもRF信号に基づいて最も近い組織型に分類される。ガイドワイヤがある場合は、ガイドワイヤアーチファクト部が壊死組織と分類されることがある。また、シグナル強度の弱い領域、例えば、石灰化組織の後ろ側、または遠視野の画像についても組織タイプが壊死と表示されることがある。

(30) 9F、9MHzのカテーテルを使用するとき、手動による記録の最後の30秒間に、「記録が終わりに近づいています。ライブ画像はN秒後に終了します。(Recording coming to an end. Live imaging will cease in N seconds.)」のメッセージが表示されるので、適切に対応すること。

(31) プリンタの前面にあるカッティング・ブレードに触れないこと。[怪我をする可能性がある。]

(32) ネットワークセキュリティ

本品は安全なネットワーク環境下で使用されることを前提としている。そうでない場合には、少なくとも以下のようなネットワーク環境を確保すること。

- 本品へのアクセスが承認済みの外部ホストに限定される、ファイヤーウォールやルーター等の保護装置
- 本品からのアクセスが承認済みの外部ホストネットワークに限定されるよう、ファイヤーウォールやルーター等の保護装置

・ 院内の安全なネットワーク環境以外の外部ホストネットワークとの接続は、妥当なセキュリティネットワーク(VPNなど)を使用すること

(33) 本品専用のイメージングカテーテルを使用すること。接続したイメージングカテーテルの正しい識別番号が画面に表示されない場合は、その使用を中止すること。[遵守しない場合、患者に疾病、傷害又は死亡をもたらすことがある。]

(34) オートプルバックをする際にはモータドライブ・ユニットとディスポーザブルスレッド又はリユーザブルスレッドの接続ユニットが転倒しないよう水平に置かれていることを確認すること。また、イメージングカテーテルを接続したまま、接続ユニットの設定位置を変更(移動)する場合は、イメージングカテーテルの状態に十分注意すること。[そのまま操作すると血管を損傷したり、イメージングカテーテルが損傷したりすることにより、正確なイメージングが得られない可能性があり、患者の疾病、傷害、又は死亡に繋がることがある。]

[モータドライブ・ユニット(MDU)に関する注意]

(1) モータドライブ・ユニットはディスポーザブルスレッド又はリユーザブルスレッドを接続したのち、リリースレバーを押すことなく手で動かさないこと。[破損するおそれがある。]

(2) モータドライブ・ユニットの直線的動作を妨げるものを置かないこと。[適切なプルバック操作を妨げることになる。]

(3) カテーテルのハブの差し込みを滅菌カバー又は滅菌バッグで妨げないこと。

(4) モータドライブ・ユニットがディスポーザブルスレッド又はリユーザブルスレッドに正しく取り付けられていることをモータドライブ・ユニットのディスプレイが点灯していることにより確認すること。

(5) モータドライブ・ユニットに滅菌カバー又は滅菌バッグをかける際は、滅菌野の内側と外側に各1名ずつ必要である。

[ディスポーザブルスレッド、リユーザブルスレッドに関する注意]

(1) 両ラッチがモータドライブ・ユニットに完全にかかっていることを確認すること。かかっていない場合、モータドライブ・ユニットの再接続を行い、再度、手でラッチをかけること。正しく取り付けられていると、モータドライブ・ユニットのディスプレイが点灯する。

(2) リユーザブルスレッドは使用時には必ず滅菌バッグに入れて使用すること。

[FFRリンクに関する注意]

(1) ベッドレールに取り付けられた状態からIVポールに移動する場合は、FFRリンクからケーブルを抜く必要はない。

[ベッドレールマウントに関する注意]

(1) ベッドレールマウントを回転させた後、ソケットヘッドねじを締める前に、垂直の取り付けバー下部の部品がベッドレールマウントの後面の凹部を完全に嵌まっていることを確認すること。

2.不具合・有害事象

重大な不具合

(1) カテーテル、ガイドワイヤ又はプレッシャーワイヤのエントラップメント

(2) ステントストラットの損傷

重大な有害事象

(1) 死亡

(2) 急性冠閉塞

(3) 心室頻拍、心室細動又は完全心ブロックを含む不整脈

(4) 塞栓

(5) 緊急冠動脈バイパスグラフト術

(6) 心筋梗塞

(7) 心筋虚血

(8) 心筋穿孔

(9) 脳梗塞(脳血管の事故と一過性の虚血発作を含む)

(10) 血栓形成

(11) 弁膜損傷

(12) 血管の解離、損傷又は穿孔

(13) 血管攣縮

その他の有害事象

(1) 狭心症

(2) 感染症

【保管方法及び有効期間等】

1.保管方法

(1) 直射日光を避け、乾燥した涼しい場所で保管すること。(保管条件は以下参照)

温　　度 :－10～＋50℃ (ただし、結露なきこと)
相対湿度 :30～85% RH
気　　圧 :800～1060 hPa
(観血式血圧測定機器は700～1060 hPa)

(2) 傾斜、振動、衝撃(運搬時を含む)などが及ばない場所で保管すること。

【保守・点検に係る事項】

1.使用者による保守点検事項

点検項目	点検時期	点検内容(概略)※
始業点検	使用前点検	・外観の検査 ・消耗品の点検 ・電源投入時の動作確認 ・各構成品の動作確認 ・初期設定画面の確認

※詳細については、取扱説明書を参照すること。

(1) 本品の内部には、オペレータが保守・修理可能な部品は含まれていない。[感電の可能性及び、故障や破壊、性能の劣化を引き起こす可能性がある。] 修理の必要がある場合は、かならず弊社テクニカルサポートセンターに問い合わせること。

(2) 交換部品は指定部品以外使用しないこと。

(3) 保管や移動の際に、装置をぬらしたり、雨にさらしたりしないこと。雨の中で本品を移動させなければならない場合は、本品に保護カバーをかけること。本品の内部が濡れてしまった場合には、完全に乾かしてから電源コードをコンセントに差し込むこと。

(4) しばらく使用しなかった機器を使用するときには、使用前に必ず装置が正常かつ安全に作動することを確認すること。

** (5) 使用前、使用後の清掃・消毒を行うこと。このとき、必ず電源を切り、絶縁トランスのケーブルを抜いて行うこと。消毒には70%以下のイソプロピルアルコール以外のアルコール、シンナー等の有機溶媒、ポピドンヨードやガス状消毒薬を使用しないこと。[故障や劣化の原因となる。]

(6) 本品に血液がかかったり汚れがひどい場合は、水又はぬるま湯を浸してよくしぼったガーゼ等でふき取り、イソプロピルアルコールで消毒すること。なお、使用する消毒液の取扱説明書の指示に従うこと。

(7) 各構成品やコード類は清浄したのち、整理してまとめておくこと。

2.業者による保守点検事項

点検項目	点検時期	点検内容(概略)
定期点検	1年に1回	・専用治工具等を使用した点検、調整

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者:
ボストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社
電話:03-6853-1000

製造業者:
米国　ボストン・サイエンティフィック コーポレーション
[BOSTON SCIENTIFIC CORP.]

お問い合わせ先:
ボストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社
テクニカルサポートセンター
神奈川県横浜市神奈川区恵比須町1－1

株式会社サンリツ　京浜事業所内
電話番号:0120-177-779(フリーダイヤル)